皆實有朋

県女第一期生より，皆実高校生に至る六拾年の歴史に連なる者。また今後，この同じ流に連なる者，手をつなぎ足音高く歩まう。足音高く声を揃えて元気に歩まう。我等は，皆実有朋会員である。歩まう，歩まう，力強く。

発行所
広島市出汐町
広島皆実高等学校内
社団法人
皆実有朋会
印刷所
四反田印刷株式会社
広島市翠町電④2024

新旧会員
益々親密を深めるよう

校長　木村二郎

皆実有朋会も今春母校創立六十周年記念式を盛大に開催して、同窓会の基盤も新旧のコンクリートが愈々密着された観のあることは悦びに堪えません。

思うに有史以来始めての祖国敗戦を中に挟んで存立している団体は余程脱皮しない限り中々思うように発展しにくいもののようです。古いものと新しいものとは所詮水と油のように混淆融合することは六つかしいが、互に古いものは新しいものの善さを、又新しいものは古いものの善さを認めて尊重し合う所に長い伝統がそのまま力となつて新しい時代に力強くその存在を主張し得るのではないでしょうか。時代こそ異れ同じ校門をくぐつて育つたというこの不思議のご縁の繋りを思う時、同窓会が活発に活動する有様は我が事のような悦びである筈です。テーンエイジャーの今の若い生徒達にはこの因縁の不思議が中々理解してもらえないのは無理もないことですが時期が来ればこの「ご縁」の不可思議に驚く時も来ることを思えば、同窓会執行部の方には何んとかして無理にでも若い人々をこのご縁に繋ぎとめる努力をして戴きたいものです。この意味に於て同窓会がなされた六十周年記念事業としてのプールの建設寄贈、結婚相談会の設立等はまことに有意義なことであつたとご同慶に堪えません。皆実有朋会が益々充実発展することを祈ります。

母校も今一千人の男女生徒が喜々として勉学に励んでおります。彼等が今後更に七十周年、八十周年の記念事業に喜んで協力したくなるような同窓会となつて戴きますように、そしてそのような同窓生を送り出すように私共は精進したいものと思つております。

写真(上)木村校長式辞　(下)熊田理事長より木村校長へプール贈呈

母校創立六拾周年の
祝賀をすませて

皆実有朋会理事長　熊田ムメ

母校創立六十周年祝賀式に参列して、ただ

「嬉しかつた。」

「有難い。」と思つた。

式典の時は雨が降つたが落着いたよい式であつた。創立から今日までの沿革が次々と経験したように描き出されて何ともいえない感慨。一期生がズラリ十数名勢揃いして下さつたことは更に嬉しく、あり難い。斉藤校長先生が、長男長女の教育は最も大切だといわれたことが思いかえされた。

母校が六十年、卒業生約一、三〇〇人、県の文化に貢献したことよい家庭を作り、夫を励まし慰さめ、またよく堪えて時勢の波に打ち勝ち、子女を正しく教育されたことなど。男女共学になつてからは、男女扶けあつて生きる教育を受けた大らかな卒業生、そんなことが頭の中を通りすぎ、こんなよい伝統と教育を受けた卒業生達みんな一丸なのだと思うと限りなき支えを感じ、「そうだ、みんな力を合せて、足音高く力強く生きて行かねばならぬ」と思つた。

有朋会の名は論語の学而第一の中にある「朋有り、遠方より来るまた楽しからずや」から撰んだものであるときく。今日の会に集い得なかつた人の上も考えて、反省もあつたが互に手をつなぎ合つて悔ゆることなき人世を歩みたい。歩まねばならぬと導きを又新しく感じる。

× × ×

プール開き

小雨の中のプール開き。小雨の波紋が静かに静かに描かれている。その中で式泳が始まつた、模範式泳の波紋が大きく美しく拡つていく。滑らかに静かにスーツと大きくうねつて軟くつき当つて、穏かに返つてくる、そのうねりの美しいこと。大いなるエネルギーを秘めているようで、こわいような嬉しいような静かな大きい波紋である。実にうまいものだと思つた。古い卒業生が二人、一人は鹿児島から馳せ参じて嬉しそうな泳ぎ方校長先生も泳がれた。

嬉々としてここで勉強せられる後輩のことを思つて、この青く澄んだ水が、この水のような美しいエネルギーのある成果が上ることを祈つた。美しく、温かく、波紋を伝え伝えて。

× × ×

各期クラス会

式後別れ別れのクラス会も持たれ、和やかな声があちこちから聞こえる。幼な顔にかへつて家路に帰られるのを見送つて、ああよかつたと感謝した。

× × ×

音楽会

音楽会も盛況であつた少しムリもあるのではないかと案じもしたが、天候にも恵まれ、来会者も多く、静かに聞きいる音楽会であつた。よい音楽会であつた。

× × ×

省みて、ほんとに感謝である。色々お骨折り下さつた学校、PTA、同窓会の皆様に、また御協力下さつた大勢の方々にも、厚く御礼を申上げる次第です。